

◆開催日時 平成27年6月1日（月）午後6：30～8：10

◆開催場所 東近江市役所 新館3階 317会議室

◆出席者

市民協働推進委員 深尾昌峰、福田純子、高頭勇次、小倉昌和、太田裕子、森下瑠美、築山清美、北井香、森田徳治、井尻久嗣、大橋正徳  
(欠席：飛田重金、楠神渉、荷宮将義、板倉元)

事務局 まちづくり協働課 黄地、村田、浅田

◆傍聴人数 2人

◆議題

協働大賞について

◆会議録

開会

(委員長) 事務局黄地さんの方から最初にごあいさつをお願いします。

**【事務局 黄地管理監より開会のあいさつ】**

改めましてこんばんは。今ほどもありましたように昨日は市を挙げてのイベント大凧まつりで大変な事故が起こりまして、実行委員会の管理責任が問われるところですが、けがをされた4人の方々にはお詫びを申し上げたいと思います。1日も早い回復を願うところでございます。今後は原因の検証、究明と市民上げてのイベントでございまして、これで終わるということではなくて、継続できるように、市としても取り組んでまいりたいと考えておるところでございます。

さて、みなさんには、昨年この委員会の委員に委嘱しまして、昨年6回の委員会と自主的な協働ラウンドテーブルということでお取り組みいただきまして誠にありがとうございました。任期は2年間ということでございますので、27年度もよろしくお願ひしたいと思ひます。

市の方では、業務の目標管理ということが言われておりまして、本年度総務部の組織目標の一つに市民との協働による地域再生ということ掲げて施策を進めておるところでございます。国の方でも地方再生ということで人口減少、超高齢社会、東京一極集中という直面する課題に取り組もうとされているところでございます。その一環で皆さんも購入されたかもしれませんが、プレミアム商品券というようなものも今配られているところでございます。私が思いますにはこの商品券は地域経済のカンフル剤にはなるかもしれませんが、持続的なまちづくりにつながるかどうかというのは、こういうことを行政の者が言うのもなんですが、はなはだ疑わしいなど思っているところでございます。地方創生に大切なことはこういった国からの交付金を当てにしてまちづくりを進めるということではなくて、やはり、自分たちの地域の事を我が事として、真剣に考えて行動するという住民が、どれだけたくさんいるかということが大切なのではないかと思っております。確かにお金も必要なわけですが、それだけではなくて、この地域の人材も含めた資源というものに目を向けてみんなで話し合っってその資源を活用していくことが必要なのではないかと思っております。この委員会の議論では常に我が町の事を我が事として考えていただける委員の皆さんばかりだと思っておりますのでここに地方創生の原点があるのではないかと考えております。どうぞこの1年間も本音で熱い議論をお願ひしたいと思ひます。どうぞよろしくお願

いたします。

(委員長)

今日の会議は終わったようですね。ありがとうございます。では改めて、会議は7回目、平成27年度1回目の委員会を開催させていただきたいと思います。今お話がありましたように本当に僕もニュースを見てびっくりしましたけれども、みんなで頑張っていることが、こういう事故になるということは不幸なことですが、みんなで盛り上げるとかみんなでやるのが後退しないように、本当に回復されることを祈りながら、こういう市民協働みたいなものがある意味リスクみたいなものにどう向き合うかということも非常に大事な問題でもあります。一方でそういうものに委縮しないで、みんなでリスクをシェアする仕組みや形みたいなものをどこかで考えるいい材料なのかもしれません。まだまだ東近江の中ではそういう議論をするのは早いと思いますが、何よりも早いご回復をお祈りしたいと思います。

今日は皆さん方で生み出したというか創りだしてきた協働大賞について、いよいよ具体的な展開を作り出す時期に来ておりますのでその議論を主にしていただいて、今日である程度協働大賞に関しては決めきりたいと思っていますのでご協力のほうをよろしくお祈りしたいと思います。では委員の交代と事務局の担当の担当等も含めて事務局のほうからご説明をお願いします。

#### **【委員の交代と事務局担当について】**

(事務局)

4月の人事異動による担当職員の交代と、NPO法人まちづくりネット東近江より佐子友彦委員に代わり、今年度森下溜美さんが委員として出席くださることについて報告。

森下委員より自己紹介。

#### **【委員会の平成26年度の活動実績と平成27年度のスケジュールについて】**

引き続き事務局より資料に基づき説明

#### **【資料】**

資料1 市民協働推進委員会の概要と平成26年度の活動

資料2 平成27年度の市民協働推進委員会スケジュール(案)

(委員長)

少しスケジュール的なところをまずは確認したいと思います。今説明いただいたように今までやってきたことは、このようにふり返ってみると本当にみなさんよくがんばっていただいたと思います。今年度のところでいきますと今日から5回ぐらいの予定でと書いていまして、協働大賞の事がメインにはなりますが、今後の検討事項のところいくつか積み残していることでもありますので、協働ラウンドテーブルを回しながら、7月に中心に議論がありますが少しやり取りしながら、今後の3回、4回、5回のところも少しそのところを往復しながらということになるかと思っておりますので、積み残しているのが協働研修みたいなところや事例集やマニュアルみたいなところですので、少し我々のにもラウンドテーブル回しながら、どういうことが必要なのかということを考えていってとりまとめをしたいと思っています。スケジュール的な事やご質問とかありますか。

これだけみていると協働大賞だけやっていたら、今年度は楽だなあとと思われるかもしれませんがそうはいきませんよ。

それではおおまかなスケジュールということで、皆さんにはヒアリングや選考など非常にお世話になりますが、今年もよろしくお祈りします。

それでは今日の本題の方の3の資料の説明をよろしくをお願いします。

### 【わがまち協働大賞実施要領について】

(事務局) 資料に基づき説明

資料3 平成27年度「共に考え、共に創る」わがまち協働大賞実施要領(案)

案は、これまでこの委員会でいただいた意見を基に委員長とも相談して作成したものが、特に副賞・市民投票等について検討いただきたい。

(委員長)

少しまとまって説明頂きましたのでポイントがいくつかありますが。まず順番に行きたいと思えます。

### 【応募要件、賞の種類、副賞について】

(委員長)

まず、名称の事は我々議論してきましたのでまずは、5ページまでのところで少し、応募要件、賞の種類、副賞ぐらいのところで確認していきたいと思えます。いかがでしょうか。応募要件のところ※1のところをあえて書いてあるのは一般社団法人だけが出ていて、じゃあ公益財団法人はどうか、NPO法人はどうなんだとか一般財団はどうなんだとか細かいこと出てくると思えますが、何かこの意味というのはあるのですか。

(事務局)

主なものというものを書かせていただいている。市民というイメージがわかりやすいように。

(委員長)

それだったら、市民活動団体で法人格は問わないというぐらいにしておいたほうが良いような気がしますね。100件も200件もたぶん来ないでしょうからあとはヒアリングとかで補ったりするほうが最初が良いような気がするんですよね。商工会とかは法人格があるのですか。

(委員)

社団法人です。

(委員長)

社団法人ですね。そういうものも含めておいた方がいいですね。

(委員)

公益社団法人です。

(委員長)

そうですね。こう書いておくとそういうところはどうなのかみたいな話になって、少しそういう市民活動団体と言われると商工会みたいなところは俺ら違うと言われるのです。

(委員)

そこまでのつつこんだ話になったら出てくるでしょう。僕も同じ質問で、逆の意味で何かあがって来るものがあると困るものがあるからこう書いてあるのかですか。

(事務局)

特にはないです。

(委員)

何かを引っ張るためにこれを書いたのですか。それともあなたも大丈夫です。あなたも大丈夫ですと言うそちらのほうですか。

(事務局)

そちらです。どちらかというとは広くエントリーしてほしいという方です。

(委員長)

そういう意味では組合とかも入ってもいいわけですよね。

(委員)

別にいいのではないですか。

(委員長)

例えば同業者組合のようなところが、例えば京都で言うと車の解体業の人たちがみんな組んで、解体1台につき1円貯めてNPOと組んで何か事業をやったりしている。そういう意味では一つの主体は組合さんが、そして市民団体が一緒になってますみたいなことがあったりとか、そういう意味でいくとここでいう市民と市民の中に企業も入りますね。まあ事業所と書いてもらっていますが、それでいくと幅広にとれるような言い方がいいのかもしれない。だから一般社団法人を消して、市民活動団体(法人格問わない。)みたいな感じで言えば、任意団体とあえて書かなくてもいいのではないかな。あとは事業所というところともう少し今みたいな組合みたいなものとかがどういう書き方をするとそういうものが含まれて言えるのでしょうか。あと地域団体やまち協みたいなのところも俺たちのことだなと思ってもらうための表現の書きぶりは、ここは大事なような気がします。

(委員)

それなら自治会もありますね。

(委員長)

出来るだけ想定されるものを全部書くという手もある。自治会とかはぜひエントリーしてほしいですね。ぜひがんばっているところで、一緒に組んでやっているところとか。

(委員)

応募要件の①と②があればそれでいいのではないかな。

(委員長)

①というのは。

(事務局)

①と②はあてはまらないこと。

(委員長)

なるほど①と②以外ならいいと。

(委員)

①②が問題だと思います。企業であっても、これ以外のものならいいのではないかな。特にアピールするなら自治会とかそういうものを、表現の中に入れていくかですね。

(委員長)

なるほど。そうですね。

(委員)

1年目だからいいのではないですか。逆にあまり書きすぎないほうが良いのではないですか。

(事務局)

1年目ですので。できるだけたくさん応募がしてほしいという思いです。

(委員長)

基本誰でもいいと。

(委員長)

そういう意味では誰でもいいですよということだと思います。協働というところで行くと、誰でもいいですね。ここでいくと個人までいいと書いてあるから。今おっしゃっていただいたようにちゃんと①と②がちゃんと排除できればいいのでは。それだけではないですけども。

(委員)

例えば③みたいなかたちで営利を目的とする事業はちょっと違うということになるのですかね。このへんのグレーゾーンがもしあれば選考で落とせばいいと思います。

(委員長)

それはたぶんあっていいと思います。営利目的だけどなんかそうちょっと地域の課題解決、例えば、訪問理容のようなものを地域の福祉の団体と組んでやっているということで行くと、それ自体は営利だけど、社会の課題解決みたいな文脈でということはあるかもしれない。

(委員)

市民と書いてあるから、団体はだめなのかという電話がいっぱいかかってきそうな気が若干するので書かれた気持ちはわかります。※1で「法人格や団体の種別は問わない。」と書いたらどうでしょうか。団体の種別は問わず、法人でもなくても良いということにしておけば組合さんでも何でも良いということにしておけばなんでも良いというニュアンスはあるかなという気はします。

(委員長)

要項上はそれくらいの書きぶりにして、チラシでなんでもありということが伝わればよい。そういう意味では自治会でもまち協でも企業でもエントリーしてくださいという言い方で伝わればよい。じゃあ、他いかがですか。今の案でいいですか。どちらかというと最初だからどんどんとって、来年度以降、こういう人たちが勘違いして応募してくるということがあれば要件に加えていくという路線ですけども。できるだけ多く勘違いでもいいからエントリーしてもらおうというのが大事かもしれない。では今のところで要件のところは整理したいと思います。他いかがですか。賞の種類、これも変更すると書いてあるので、いい加減なところですけども。本当に意味があって、みんなで応援してあげたいというのがあれば賞を増やせばいい。今のところこれくらいの書きぶりかなということと、副賞のところは打ち合わせで盛り上げてしまって、最初、副賞としては出せるとしたら行政としては予算的に難しくなるので、まち全体でありがとうとかをお互いに言えあえるとか、このクーポン持ってきたら、お店の人にもがんばっているねと言ってもらえるコミュニケーションツールとして、何か実質100万円ぐらいの副賞がまち全体みんなを出せばいいのじゃないかと思います。これ自体はお商売されている方からすると販促の延長線上で考えてもらったらそんなに負担でもないものを出してもらったらいいし、ちょっと上乘せぐらいの普通のホットペッパーとかに出すよりは、ちょっと俺らも頑張るでというぐらいの割引とかを出してもらって、その券を持って来られたら、ちょっとみんなでほめてもらったり、それをきっかけにコミュニケーションとってもらおうというので、まち全体で応援出来たらいろいろ盛り上がるのではないかという少し私的な幻想が入っています。そう言ったら市役所の方やまちづくりネットの方がやるって言われるのでそのような方向で進めてもらっています。

(委員)

100万円は大きいのではないか。

(事務局)

プライスレスのものも結構あると思うので

(事務局)

誤解があるのではないかとということが少し心配ではありますが。

(委員)

実質ですから。

(委員長)

そのあたり楽しく打ち出せるといいですね。だから WEB 上にはそれがあがっていただらいのかなと思いますけれども。

(委員)

現在額みたいなものですね。

(委員長)

まちの人たちがある意味さっきの商品券の話ではないですが、ぐるぐると回ったりとか、どうせ食事をするのだったらここで食べようというような地域の経済循環みたいなところの意識にちよつとでもそういうものにつながっていくと良いなと思っています。ややこしいことはやめとこうとかやめろという話なら別ですが。

(委員)

結局、最終リアリティということではどうなのですか。可能性あるわけですか。拠出できるという意味合いにおいては可能性はあるのですか。

(委員長)

実質100万円だから、例えば5000円以上の宴会の100人分を2割引にしますという券だったら、実質で言うと大きいわけです。そこを換算して言っちゃえば。そこらへんでいろいろ工夫は出来ると思います。例えば体育館を1回借りたらこうだみたいな、例えば12万とか何らかの形で換算する。それぞれにこれがいくらと言わなくていいと思いますが、まとめたら、だいたい実質これを全部お金を出すと100万円だよという、100万円でなくてもいいんですよ。50万でも10万でも良い。

(委員)

全部使用したら100万というわけですか。

(委員)

そういう理解ですね。

(委員)

充分です。

(委員)

賞の総額、もしかしての100万円というのも応募要項の中の謳いにするということですか。

(委員長)

謳いというか、今のこのチラシで言うところここに書いています。

(事務局)

そこを少し悩んでいます。

(委員)

元来はどのようにお考えだったのですか。僕は、前回の委員会に来られていないのですが何か喋っておられましたか。

(委員長)

もともと予算はないですよ。

(事務局)

予算はないですが、副賞に何かあったらいいよねとか企業さんに協賛してもらって、何か出してもらえたらいいよね、みんなで営業して集めようという話まではしていました。

(委員)

協賛金ですか。それとも協賛品ですか。

(事務局)

協賛品か、協賛金かわかりませんが。そういうものができればいいねという話は委員会の中でしていただいていた。

(委員長)

協賛品や協賛金を出してもらっていいと思います。いろんな人たちにこれを、飲食券だと3割引の券を出したところでそんなに痛くないわけです。そういうので出したことで興味を持ってもらうとか、それだったら出してもいいわと思ってもらえるぐらいのところでは少し広がりが出てくるとおもしろいなというだけなのです。

(委員)

僕はこのまちの商工業者の1人としてしゃべると、実質リアルな話をするとこの話をしっかり落とし込むことが一番大切だし難しいと思います。このまちの商売をなさっている方々にとって、こういう協賛ということがすごいプレッシャーなのです。この話を持っていった時に必ず「またか」とたぶん絶対言われるのでここをちょっと慎重にやっておかないといけません。先生のおっしゃることがほんまにわかってもらえるかどうかすごく大事。さっきの話、プレミアの三方よし券の話でいくと、三方よし券という地方振興券みたいなものにプレミアがつく。先ほどその話が短く終わってしまったのが僕は残念でしたが、僕自身はあれは、完全なPR不足だと思います。あれをどれだけ完全な肝いりでやっているかという事の重大さに市民の方はほぼ気が付いてないのではないかと懸念しているのですが。

僕ら商売している者からはありがたい話です。ただ、ここの部分は盛り上がっている、ここの部分は知らないという差があり、僕はそれを聞いているので。それも三方よし券はもともと使っていたのを商店としては預かって商工会議所に持っていったら換金してもらえるとシステムじゃないですか。これはあくまでも負担してもらおうということですね。

(委員長)

もっと言えば今あるものを置き換えてもらっていいと思うのですよ。普段出しておられる割引券を出してもらおう。

(委員)

だから余計に、精神、趣旨の落とし込みが大事だと思います。なおかつ、いつものとは違うのかということ言われますから違うということにもっていかないといけません。

(委員長)

逆にそこをちゃんとプレゼンしに行く機会ってありますか。説明して、逆に落とし込めばいいですね。

(委員)

商工会の方々が「わかりました。やりますわ。」と言ってくれたら力強い。たぶん職員がまず一番に「またですか」と言うと思います。

(委員長)

今みたいなご意見が本当は欲しかったのです。そういうところをつぶしていくとか理解してもらおうと逆に言えば広がっていく。中途半端な協賛金よりこういうものの方が意味があるよねと思ってもらえるようなものになれば良い。

(委員)

よそが加盟していく様を見ながらそこにのっかっていきたいと思うようなものになれば良いが年数がかかると思う。1年目でそこまで持っていくのは難しいと思う。

(委員長)

逆に言えば今話していたのは若干関係性のあるところからはじめて、最初の実績をつくろうというのが今年のフェーズで、できれば来年に向けて、組織的に今おっしゃった様な落とし込みができていくような事ができればいいなというイメージとしてはある。

(委員)

そのためにもという意味で見た目の100万円はインパクトがあります。5万円ではインパクトがないでしょうね。

(委員)

彦根市の商品券は、すぐに完売したらしいですよ。そして東近江市は応募が少ない。この間の議員さんの説明会によると再募集するとか。市民の方はもっとしっかりPRするべきと言われます。それを思うと、しっかり商工会等にきちんとお願いするとかしてやっていかないと。なかなか心配される場所はそこです。

(事務局)

一応話すところには話しておかないといけないと思って、先生と打ち合わせした後に、内々に動いておこうと思って、一応八日市商工会議所の局長とは話しました。こういうことを考えているんですがどういうやり方をしたらいいですかみたいな話をしたら、自由にやっていいよとわれたので、PRする場があれば下さいといったら、今週か来週YEG(八日市商工会議所青年部)の会議があるのでよかったらプレゼンでもしてくれませんかとは言われたので、声をかけてくださいと言っています。ここでOKが出たら進めていこうと思っています。他にも商工会議所以外に内々である学校の先生にしゃべる機会があったので、しゃべっていたら、こういうことを考えているんですと言ったら、もちろんランドも貸してあげるけど、割引券とは種類は違うが、例えば、大賞になったところや最終候補に残ったところが学校で授業ができる券でもいいのか、お金には変えられないけれどもいいのかと言われて、そういうのは面白いですねと盛り上がっていました。話が進んだらそういうのもお願いしてもいいですかというと、逆に向こうもお願いしますみたいな感じでした。この2~3週間いろんなところを当たってきた感触です。今日は皆さんの意見を聞いてGOサインが出たら考えたいと思います。

(委員長)

少し落とし込んで、まち全体で盛り上がっていく空気感みたいなものが作れればそれが一番いいですね。そういうのが3年後、4年後に作れるために今年どこまでやれるか。今みたいな持ち寄り型で、例えばそれぞれ考えて下さったらいんですが。僕ができることなら団体の相談できますぐらいは。そういうのもありだと思います。東近江に関わってもらっている人たちで、こういうのを応援してもらう。券を使う、使わないは自由ですから。そういうのを寄せ集めはあると思います。



(委員)

持ち寄りを基本にして限界まで頑張るしかないのではないですか。

(事務局)

営業はだいぶん頑張らないといけないと思っています。

(委員長)

その100万にこだわるかどうかですが、今おっしゃったようにできるところまでやろうということではいきませんか。

(委員)

委員長がおっしゃったことを分った体で言っていますが。結局寄せ集めでやったときにこれとこれと10アイテムとか20アイテムとか集まった時に、それで100万と言っていいだろうと言うことならいいと思う。プライスレスも入っている中で、それも含めてはずかしくないだろうというなら。予算がないわけで。

(委員長)

ある意味で、こういう賞を協働で動かしていく一つのスタイルとしてやるということですね。

(委員)

副賞も協働でしましょうということですね。

(委員長)

これが30万でも副賞の予算があればこんなこと考えないと思うのですが。お金がないから知恵で乗り越えるしかないというところから出てきた話なので。

(事務局)

また委員の皆さん方もお願いします。

(委員)

例えば、プロ野球などでプロポーズするワンシーンをするのがあるがジャズフェスの一角5万円とか、いろんなことがあるから、一回思い切ってやったらどうですか。

(委員)

プロが集まる一番いいステージの前の席ありますよ。

(委員長)

このイベントのここに広告出せます。ロゴ出せますとかも協力してもらおうとできる。そういうものを積み上げてあるものを活かしていく発想でいくとかなりいろんなこと出来ると思いますのでこのラインでがんばりませんか。総額100万円と言えるかどうかというのはどっかで判断するとして。

(委員)

確かにインパクトは絶対必要だと思います。すごいと言わせないと。

(委員長)

イメージは大相撲の最後の表彰式。いろんな賞がてんこ盛りで、次から次に賞を出すイメージ。表彰式の時にそういう人たちも興味持って来てもらうとか。

(委員)

土俵入りのところ。懸賞がいっぱい並ぶ。

(委員長)

そっちでもいいです。そういう人たちがちょっとでも興味持ってもらって表彰式に来てもらっ

て、来てもらった人に表彰状を渡してもらおうとか。協賛金のものを順番に渡してだけでも、やっている側からするとたぶん支えられている感やまことに応援する感がでる。事業者にそういう場面を作ってあげることもある意味で、普通の協賛と違う手ごたえとかこういう人たちを応援するんだということが見えると次につながる気がする。

(委員)

盛り上がりですね。

(委員長)

もともとお金がない。お金がないって素敵なことですね。知恵が出る。ここだけやっているわけにいかないので、一応皆さん方も、ぜひ、うちの自治会のこのイベントで宣伝さしたる券、うちの親戚に PR したる券でも最初だからいいと思うので。みなさんのご関係されている中でチラシにおいてやるでもいい。ちょっと PR してやるとか。せつかく動画つくってもらおうとかそれ流したるとかでもいいので。少し寄せ集めたいと思うので。初回ですので、ここからはじまるしかない。僕も運営相談券、3回券を出しますので。いくらで換算してくれるのかと思いますが。

(事務局)

ありがとうございます。

(委員長)

そういうのを出してもらって、まちづくり協働課さんとまちづくりネットさんにはそういう形でいろいろと動いていただこうと思っておりますがよろしいでしょうか。非常に恐縮ですが1人1アイテムぐらいなんでも結構ですのでぜひご提供いただいて。100万円はだめですか。

(事務局)

やはりインパクト100万円なんですね。豪華賞品ではだめなんですね。

(委員長)

本当に集まらなかったらちょっと考えましょう。どう見せるかという議論だとは思いますが。本当に集まらなければやめた方がいいのですが、なんとなくいけそうな気がする。このくらいの書き方ってうまいと思います。実質100万円をめざして協賛募集中という。手作り感であふれている。もし、まちづくりネットさんのWEBでこのページが作ってもらえるのだったら、現在の副賞みたいなぐわーっとそれが増えていく感じが見えれば、がんばっているんだなと実質100万でそういうことねと落ちとしてわかる。

(委員)

どう書いてあるのですか。

(事務局)

副賞、地域が元気になるものと書いてあって。実質100万円(総額)を目指して協賛募集中というのがチラシの下の方に書いてある。

(委員)

それを読むとやっぱり100万円もらえちゃう。それを100万円相当のクーポン券相当の何々と書いたほうがいいのではないのでしょうか。そこの書き方だと思います。100万円相当の何と書いたら嘘をついていないというか。

(委員長)

100万円相当のまちからの応援なんです。そういう感じなんです。厳密にいうと、難しい。ざっくりと。ここの表現は事務局に任せましょう。時間があればまたあとでやりたいと思います

が。今のところでいくと、方向性として、協賛的なもの、お金じゃなくて、をそれぞれできることも含めて随時見せていくということと表彰式の時にしつらえをする。みんなでありがとうと言ひ合うということ。そこまででいいですかね。皆さん方も何らかの形でエントリーをしていただければよろしくお願ひしたいと思ひます。今のが副賞のところですか。そこまではよろしいですか。

(委員)

はい。

#### 【申し込み方法、選考方法について】

(委員長)

はい。ありがとうございます。6ページ以降のところになりますが。申し込み方法と選考方法のところですね。6ページ7ページを少し見ていただきたいと思ひます。心配なところはありますか。

(委員)

応募した人は全員出してあげたいなと思ひますが。1次、2次があったので1次でやっぱり落ちるところがあるのですか。

(委員長)

先ほどの説明では、1次選考は要件が違う、公序良俗に反すというレベルでこの賞に合わないものを事務局的に落とすというのが第1次だと私は理解しています。

(委員)

ほとんど通るといふことですか。

(委員長)

基本は第1次は通る。第2次選考でこの委員会である程度絞りこむという作業があつて、そのあとに、ヒアリングに委員の皆さん方に行つてもらふ。ちょっと確認したいとか、この点は応援したいからヒアリングでもっと詳しく聞こうとか、2次選考の後にヒアリングをしてそれをふまえて最終選考をするということですね。だから、さっきの賞増やすことは可能、視野に入つてはいますね。

(事務局)

特別賞といふ名前ですけれども、特別賞の中にいろいろな名称のものがあつてもいいかなと思ひています。いくつどんな事例がでてくるのかといふのがわかりませんが賞の名前についてもそれにふさわしい名前を付ければいいかなと思ひています。

(委員長)

悩めるくらい出てくればいいですが、どうでしょう。ちょっと気になるのは市民投票のところ、インターネット投票やるところで1票1点と明記しちゃつていいのかどうか僕自身は悩むところがある。例えば委員との傾斜配点はどこかで考えるとしても。組織票的に仮に1000点入つてきたら。1票1点に換算する書き方をここにしようとなつて1000点になる。委員の傾斜配点、持ち点をこっちが1万点にしようと言つて、他のやつは説得なくなるので。点数はあえて書く必要はないかもしれないなといふか、市民が選んだといふところでいくと1位2位3位で1位のところが10点にするかといふやり方もあるかなと思ひます。少しそのどういふ出方をするかなんとも言えないなと思ひます。

(委員)

賞にエントリーした時に、落ちた時に返事来るのですけれどもむなしのものもあるんです。例えば

里山クラブで生物多様性日本アワードの第3回にエントリーしたのですが、1行ぐらいで「いい取り組みをされていますが、今回は賞に入りません。」とそれしかなくてフィードバックがない。それと違って、フレッシュャーズ産業論文コンクールとていうのがあるのですが、その中小企業の部に会社にいる時出して、毎年入賞する人を出してきたのですが。その時は、全員5行ぐらいコメントが返ってくるのですよ。それは論文だからかもしれませんが。今回せっかく応募してもらうわけですから、宗教や公序良俗に反しないそういうものに該当しない一次選考クリアした人に多少3行から5行程度積極的なコメントをつけたら次回エントリーする意欲にもつながるし、そういうのをやっておいたら、評価するときの議論も活発になる。

(委員長)

そうですね。議論が活発になるし、責任がある。仕事増やしていくのですね。個人的には賛成です。フィードバックしましょうということですね。この点はよかったですよとか他と比べてここは弱かったから今回はダメでしたとか、よかったところ、賞をとったところは何が良かったかというのをきちんとフィードバックをちゃんとしましょうというご意見ですね。よろしいですか。大丈夫ですか。皆さん書いてもらいますからね。首を絞める話ではありますが、非常に大事な事だと思います。

最近学生たちは、就活の時なんかで、何も書いていない、落ちたメールのことをお祈りメールと言います。最後にご活躍を祈念していますと100社落ちたら100通それが来るので、お祈りメールはもういらんというのが学生たちの言い方です。お祈りしますだけでは分からないという話です。ぜひ、ちゃんと議論したことを出来る限り、応募していただいた方に伝えましょうと言う非常に良いアイデアだと思いますので皆さんよろしいですか。要領に書く必要はないですが、そういうことで運用したいと思います。こういうところで市民投票ができるのではないかとせっかく動画つくってもらおうので何かアイデアがあればどうぞ。

(委員)

待ち時間長い所、病院とか、銀行とかはどうですか。

(委員)

病院は待ち時間が長い。

(委員長)

皆さん方のお友だちの病院とかはないですか。置くのはモニターぐらいですか。

(事務局)

モニターと投票用紙、投票箱、DVDプレーヤーが置けるぐらいのスペースです。

(委員)

みなさんそれぞれの地域にコミュニティセンターがあって、指定管理でやっておられて、テレビもありますね。

(委員)

支所とかはどうですか。

(委員)

そういうところで流してもらおうのはどうですか。ダビングしたらできることやから。

(事務局)

蒲生なら可能ですか。

(委員)

可能だと思います。

(委員)

支所は住民票とかはとりに行かれることはありますがあまり多くの方ではないのではないかと。

(委員)

コミュニティセンターなら行事のあるときとかは多くの方が来られるのではないかと。ロビーでやっておられるので。

(委員長)

学校とかやってくれないか。どこかで授業とかで、一コマくれればみんなで見るとかできる。そういうのが、今までこの間、我々が議論してきた、少し子どもたちとか、小中高生とかにまちづくりに興味持ってもらえるのが大事だよねということですね。そういう意味では言い方は悪いですがコミュニティセンターとか市役所ロビーとか比較のお年を召した方々が目にする場所だとすると、子どもたちが実質的に審査なんかできなくてもこういうことがあるんだとかこういう取り組みがあるんだということを知ってもらうきっかけなんかに使っていけばいい。

(委員)

出前授業で、この間、5年生の授業で、農業で5年生の子に市役所の職員が出前授業をやっておられた。中学校、高校、びわこ学院大学、滋賀学園とか。びわこ学院大学で授業とかさせてもらえたら良いが。

(委員)

理事長とかも私は良く知っているので、頼めばしてくれると思います。

(委員長)

逆に言えば、そういうのと大学とかも比較的ニーズはありますね。大賞をとった人が、そこで講義するとかは大学からするとハッピーな面もある。ゲストを選ばなくてもいいとか。今年は無理でもそういう若い人が触れる機会みたいなものが意識的に作れるといいですね。

(委員)

今度理事長にあった時間聞いておきます。

(委員長)

今年のところでいくと投票期間はいつでしたか。11月の14日からですね。もうちょっとやるといいかな。

(事務局)

場所がアピアを借りられるのがその期間だったので今の期間の設定になっています。場所によっていろいろにするとか、複雑にしたらできないことはないと思います。

(委員)

あかねの大ホールとかで人を集めてやってほしいです。

(委員)

市民投票に行ってもらうしかけがないと、作らないとアピアでやっても、市役所でやってもなかなか難しいよねとは言っていました。

(委員長)

動画を見てもらうというのはいいのですが、結構大変ですよ。やっぱり紙ベースでボードとかになっていてその中で選べるというのも大事だと思います。

(委員)

あかねでやっぱり発表してほしい。私は何回か出たことがあるのですが、2分間スピーチでいいので発表してもらおう。そして、みんな審査員のように紙を持って投票してもらおうという。いいと思うけどなあ。あかね大ホール、500人の規模で。

(委員長)

じゃあ今のところ少し時間あるので、今ここは確定ということでもいいと思いますが、その前後を含めて投票場所としたり、人のいるところにどう出かけて前後で協力していただくかとかができたら行こう。これも実質得点を得る、評価してもらうことも大事ですが、こういうことをやっている人たちがいることを多くの人に知ってもらおうプロセスだと考えたほうがいいと思います。さっきの病院とかも非常にいいし、出かけていってというのもできる限り、結構協賛の100万もそうですが結構業務量的には多くなるので、無理のない範囲で1か所でも増やせばいいとか1ヶ所でも学校でやればいいのか経験値を積んでいくプロセスということでやりましょう。他いかがですか。

はい。それと同時に少しエントリーシートのところも見ていただきたいと思います。裏面資料4になっておりますが、ちょっと簡素化していただきました。あまり詳細に書くよりは、エントリーだけは大事なのでしてもらって、あとはヒアリングやいろんなことで補い合えるので、できるだけ簡素化してもらおうということでA41枚で工夫していただいたものが8ページになります。

よろしいですか。ヒアリングシートのところは、一応これで仮置きしてもらって、あとエントリーの後でもう一回審査会、2次選考がありますので合いますので、もう一度みてもらって、もう少し聞いた方がいいということなら、もう少し聞いたほうがいいということではその時に追加してもらおうことにしましょう。ヒアリングシートはこんな感じで、一応今のポイントで、全体としては、公募が開始できるかなというところまで来ましたが、全体を通して何かあれば。あればラストチャンスです。いかがでしょうか。

(委員)

エントリーシートで、どこまで追求できるかどうかなのですが、事業規模、予算の出所、助成金を受けたのか。どういう財源がちょっとだけぐらいのわかる書類。書類をぱっと見ただけでこれだけで判断するのは難しい。どうやって、やっているのかがわからないと、2次選考にあげられるのかどうかわからないということになりそうな感じもして。財源の選択肢があってもいいのではないか。そういう気がしたのですが

(委員長)

財源がわかる必要がある。他に何かありますか。

(委員)

これだけで、書類選考で判断していけるのかどうか。

(委員長)

悩んだときには電話して聞けばいい。わからないときは電話して聞けばいい。

(委員)

応募側の気持ちで考えたほうがいい。ハードルあげればあげるだけ応募しにくい。

(委員)

事例的なものをしてあげないと、協働ということの中身が応募される方々がわかるようなものがあれば、ちょっとわかるものがあれば、このことが協働だねということがわかりますが。僕た

ちのように勉強、議論したものにはわかるが、やっておられる方からすると何だというような気がして、何かにこういうことだよと付けてあげるようなことをすればという気がするのですけれども。

(委員)

今の話はすごく難しい問題だと思います。そもそも論に戻る話になりますが、僕も同感なんです。僕も知っていただくためにこれをするというのもあるかもしれないし、やっぱり、「協働」というのがいまだに話題になっている。「協働」とは何ぞやということが、新しく入って来られた方が、「僕途中からなんです、協働ってなんですか？」と必ず質問されるのがそれじゃないですか。絶対そのパターンじゃないですか。怖いのは事例を挙げるとそれに縛られてもと思います。これは大変難しい問題です。

(委員)

それに関連して、我々メンバーで、委員、自薦他薦じゃなくて、これだったら行けそうだなという団体さんに出したらどうですかというアドバイスしてもいいのですか。

(委員長)

どんどんしてください。ただ、公正に審査していただいて、最初はそういうところから、事例を超えていくというか、協働ってこういうものだよねと言うのも難しい。少しそこを声かけしたりして、形をつくって行って、1回目、2回目になってくるとだいたい見えてきますね。事例集を作ることになっていますし。

(委員)

協働っていうと誰かとと思いますが、個人でも出られますものね。

(委員長)

そういう意味では、問い合わせがあれば、事務局のほうで少し丁寧に答えてもらえばいいですし、結構このチラシのキャッチはいいなと思ってます。なんでもいいんじゃないかと言う感じがします。

(委員)

副賞のところが、「今年東近江市で表彰します。」と書いているから。まちみんな応援しますならいいですが、東近江市でと書いてあったら市役所が、行政がやるんだな、と思われるのでは。

(委員)

東近江市みんなで。

(委員)

「東近江市みんなで表彰します。」それにしましょう。すばらしい

(委員長)

ありがとうございました。今年をあえて少しこんなだよと言わずにやってみましょう。ただ、問い合わせがあつたり、皆さん方もいろいろ聞かれると思うので、このようなものも対象になりますよと言って頂けたらと思います。ありがとうございました。今の議論をもってですね、公募の方に移りたいと思います。最後の議論もそうですけど、どれぐらいの応募を我々の目標値にイメージとしてはおきましょうか。応募総数。

(委員)

80。

(委員)

目標は大きくと。

(委員)

各まちづくり協議会2こずつ出してもそこそこになる。

(委員)

いくつになるんですか？

(事務局)

28です。

(委員)

14のまちづくり協議会がありますよね

(事務局)

そうです。

(委員)

この前の市民活動推進交流会「わくわくこらぼ村」は56団体の参加でしたね。

(委員長)

50ぐらいあるのでは。結構ハードル高いかもしれませんが、最初が肝心なところもあるので。最初から少なくても応募総数6件で、6件表彰されたでは悩み甲斐がない。別に50件にこだわるわけではありませんが、80件来てもいいですけども。できるだけPRとか声かけしていただいて、先ほど言っていたように声かけしていただいて、促していただいて。かつフィードバックきちんとすることで、毎年出していただくような関係性をきちんと作る。賞をもらうというより、このプロセスを一緒に楽しみましょうと、こういうことがあるんだということを多くの人に知ってもらうことが大事だということに少し力点置きたいと思います。ということで皆さん方、お仕事が増えましたが、この委員が1人3件ぐらい声かければすぐに集まりますね。

(委員)

こういうことを言うと、私も自治会でこういうことしたからとか用紙を持ってきて。これ出しといてねみたいなことを言われたりするのです。声かけすると、集まるなあと思って。

(委員長)

では3件ぐらいを目標にお願いします。

(委員)

今の話を聞いて、エントリーシートに目的と内容書く欄ありますが、ここはもう少し具体的にできるようにしてあげたい。いつか達成できたらよいという目標を書かれる方がいらっしゃると思うし、さしあたって、これがほしいというのをおっしゃる方々もあるでしょう。実際に副賞にあわせて考えたら、さしあたってのことを聞いてあげたい気もしますよね。遠い遠い30年後のことを書かれても、書いていただくのはいいのですが。

(委員長)

今非常によくわかりました。これ自体はひとつこれをそろえておきたいのは、やったこと、今の話で言うとやりたいことを含めるのか、やったことなのかという議論ですね。

(委員)

過去を書くのですね。

(委員)

そこを議論しておいたほうがいいですね。



(委員長)

今だと例えば30年後こんなことをやりたいということを書いてきたらどうするのかという話ですね。

(委員)

書いてくるのはいいと思うけど、そこに皆さんが賛同するとかいいよねと感じる事はいいと思うけど、副賞に照らしあわせて考えると、副賞の中で現在の利益がかみ合う者同士、マッチングをしてあげられたら一番いいですね。こういうことを望んでおられる副賞の中にこういうことをおっしゃっている方がいるからこことここを合わせると良いとか。

(委員)

さすが商工会ですね。

(委員長)

そういう意味では一応募集要領の5Pの中にあるのは、現在、東近江市で協働で実施されているまたは実施した事業とあります。現在進行形もしくは、やった成果が出ているという、だけどころかこういう課題があるとかみたいなことは書ける。

(事務局)

ヒアリングシートの中に今後の展望みたいなことを書いていただく欄がありまして。今まで取り組んで来たことに対する賞ではありますが、新たな展開を考えられることもありますし、そのへんのところで聞き取っていただいて、言っていただいたようにマッチングにつながったらすごくいいと思うので。対象としては、今取り組んでいることか過去にされたことと考えているので、そういうことでお願いしたいです。

(委員)

ヒアリングの重要度があがりますよね。このエントリーシートが広く多くの方に応募していただけるようにという思いのエントリーシートを作れば作るほど、このヒアリングシートの重要性があがってきますよね。

(委員長)

おっしゃるとおりです。

(委員)

このバランスを一度は議論しておいた方がいいと思ったので。

(委員長)

そういう意味では、またこれも、われわれ自分で自分の首を絞める事になりますが。エントリーシートは簡素化でいいと思います。先ほどから言っているように、今年度の戦略はたくさん出してもらおうと、出しやすい環境をつくろうというその分我々が汗かけばいいのであれば、そうしようというコンセプトだと思います。ヒアリングのところ、補なればいい。実質ケースバイケースだと思います。本当にぐわーっと頑張ってみたり1回だけというイベント型のものであれば、毎年続けていこうと思っているけどもこういうことに困っているということもあれば、そういうところから次の展開をされているものもあれば、ケースバイケースなのでそこはヒアリングとかで補うということで整理したいと思います。ありがとうございました。大分形になってきましたのであと少しどういうふうに表現するかというのはまちづくりネットさんの腕にかかっておりますので。よろしくお願ひします。じゃあ、今日の議論を持って協働大賞については、公募のプロセスに入らしていただいて、事務局の方には大変ですがよろしくお願ひします。

重ね重ね皆さん方には協賛の部分とエントリーの部分で汗をかいていただくこととなりますがよろしくお願ひしたいと思ひます。10年後の協働大賞は我々がとる。もう1回この議論したメンバーで土俵入りのあれをもらう。じゃあこの議論自体はこれで終わらせていただきたいと思ひます、ありがとうございました。

**【事務連絡】**

※事務局より事務連絡

次回の開催日は、次第には7月ごろと書いてありますが、8月ぐらいになりそうです。テーマも考へて、併せて日程調整してご連絡します。よろしくお願ひします。

※閉会